

本研究は、車載機器への情報提供サービス利用者の利便性向上と情報提供サービスの産業としての発展に資することを狙いとして実施した。

1990年代後半、日本ではカーナビゲーションや VICS の普及を背景に、モバイル情報提供サービスが相次いでビジネスとしてスタートした。現在では、G-BOOK やカーウィングス、インターナビ・プレミアムクラブなどの第 2 世代のサービスに移行し、自動車にとって重要なサービスの一つとなりつつある。ITS の規格化事業では、ユーザ利便性や事業効率を向上させることによってモバイル情報提供サービスの発展を図るべく、平成 11 年度から欧米に先駆けた標準化活動を展開してきた。しかし、最近では、欧州では ERTICO が中心となり ITS サービス用のプロトコルである GTP (Global Telematics Protocol) の標準化に積極的に取り組んでいる。また、ISO/TC211/WG8 では位置情報サービスの標準化活動を開始しており、日本の ITS 標準化活動の先進性と有効性を保つためには、こうした国際標準化活動の動向を考慮する必要性が高まっている。

そこで今年度は、モバイル情報提供に関わりのある国際的な標準化動向をこれまで以上に幅広く調査し、日本での標準化検討を見直すこととし、欧州における GTP の標準化内容、及び ISO/TC211/WG8 における標準化内容を調査検討し、これまで実施してきたモバイル情報提供サービスに関する標準化活動を評価するとともに、今後の標準化活動への取り組みについて検討を行った。また、海外での標準化活動の調査については、その内容を明らかにするとともに、その標準化活動が何故実施されているかの背景を分析することにより、日本に必要な標準化の方向性を明確にし、標準化項目などについて検討を行うこととした。その検討の家庭では、以下のような議論が行われた。

現在、テレマティクスが普及していない要因の一つに、魅力あるコンテンツの提供ができていないことがあげられる。ここでの問題の一つに、コンテンツ収集の困難さがあげられる。これが解決され、かつエンドユーザの利用価値が理解されれば、テレマティクスサービスは立ち上がりを見せると考えられている。車にとって必要かつ魅力あるコンテンツとして、走行安全や交通流改善のための道路交通関連情報があげられる。この種のコンテンツは、日本では公共機関が情報収集・提供を行っている。この公共機関のコンテンツに、民間企業が付加価値を加えていくのが、一つのテレマティクス普及の方向と考えられる。テレマティクスの標準化活動は、民間でのビジネスの活性化に役立つ視点で取り組む必要がある。

また、今後のテレマティクスサービスの発展を考えると、車と外部とのインタフェース、通信プラットフォーム、プロトコルなどの標準化が、普及のための重要な要件になると考えられる。将来、車々間通信による出会い頭衝突警報サービスなどのように、異なる自動車メーカーの車両が相互に通信することが考えられ、通信プロトコルなどの標準化が必要となるであろう。現在、自動車や携帯端末などのモバイル機器には、エレクトロニクス技術に加えてネットワーク技術が導入されようとしているが、そのソフトウェアの開発には多大な工数がかかる。ソフトウェアの開発に関する規格を標準化し、ソフトウェアの再利用やバージョンアップを可能とする仕組み作りが重要である。